



前号で、官公庁、地方自治体のウェブサイトアクセスすることで、生の一次情報を得ることができることを指摘した。その中で特に重要な資料が、新聞やTVなどマスコミがニュースとして取り上げる白書である。この白書の取り上げ方は、マスコミによって違う。白書をウェブで直接閲覧し、海外からの白書への言及も含めて比較すれば、一味違う情報の入手が可能になる。

第七話 白書を読む

官公庁の発行する資料の中で最も注目されているものは、なんだろうか。それは、中央官庁が毎年発行する白書である。白書が発表されると、マスコミは一斉にニュースとして取り上げ、その内容を紹介する。

白書（年次報告書）とは、ウィキペディアによれば、「日本の中央省庁の編集による刊行物のうち、政治社会経済の実態及び政府の施策の現状について国民に周知させることを主眼とするもの。政府の施策についての現状分析と事後報告を中心とした公表資料であり、統計、図表、法令などのデータ集は含まれない。」とある。

ちなみに、日本において初めて作成された白書は1947年（昭和22年）7月4日公表の経済実相報告書（経済白書）である。

では、白書は、マスコミにどのように取り扱われているのであろうか。例えば、朝日新聞で、白書の取り上げ方をみてみよう。それには、{白書 site:asahi.com}として、検索すればよい。

そのいくつか紹介すると、「防衛白書発表延期 韓国併合100年控え『竹島』回避か」（2010年7月28日付け）、「収入格差の拡大、初めて国の責任認める 労働白書」（2010年8月3日付け）、「政権色の経財白書 政策裏付け、揺らぐ客観性」（2010年7月29日付け）といった具合である。

新聞社の白書に対する論調は、新聞社の社風や社会的雰囲気によって大きく異なる。各社の比較読みをすると面白い。ちなみに、グーグルで{白書 社説}と検索すれば、白書の発表にあわせて、その内容について論及した各新聞社の社説がたくさん検索される。

日本の新聞社は、メディアの立場から白書の内容を、批判的に紹介する傾向がある。素人や門外漢にとって、社説の比較参照は、論点や問題点を知るのに有用である。

白書ではないが、新聞社の社説の違いを知る上で便利なのが、日本新聞社協会が発行している新聞協会報（週刊）の「紙面展望」欄である。毎週、その当時話題になったテーマを決めて、各社の社説を分類整理して簡単に紹介している。2008年までバックナンバーが掲載されている。（<http://www.pressnet.or.jp/publication/view/>）。

また、ブログ「社説比較～新聞社説の読み比べ」（<http://leaderette.seesaa.net/>）というウ

ウェブサイトがある。こちらのサイトは、日経・朝日・読売、毎日、産経の各新聞社の社説にリンクが張られている。

また、社説以外の記事が比較読み比べできるウェブサイトとしては、「新 s (あらたにす) 」 (<http://allatany.s.jp/>) がある。日経・朝日・読売の3紙の共同になるもので、2008年1月末日より開催されている。

最近面白く感じるのは、日本のマスコミが、中国政府や韓国政府の白書の内容について、紹介する機会が増えていることである。日本にとって、中国や韓国の存在感が高まっていることを反映しているからであろう。

ここでお勧めしたいのが、日本のマスコミ経由の紹介ではなく、相手国のマスコミによる白書の紹介記事を、直接に閲覧することである。グーグルで、{日本語で読める 海外の新聞} と検索すれば、海外の新聞へリンクを張っているウェブサイトが、簡単に入手できる。

ちなみに、韓国の大手新聞社「中央日報」で取り上げている白書を見てみよう。韓国の国防白書だけでなく日本の防衛白書にも言及していることがわかる。『日本独島領有権』主張防衛白書 10 日発表 (2010. 09. 03)、「韓国国防白書『北朝鮮政権と北朝鮮軍は敵』…事実上の主敵概念復活」(2010. 12. 28)、「『北朝鮮、戦闘機 40%前方配置』 2006 国防白書」(2006. 12. 30) などなど。

また、日本と中国の新聞社が、中国政府による「反腐敗白書」について紹介している記事がある。両者の記事を比較読みすると、それぞれの国の違いを感じて興味深い。メディアとは、事実だけでなく自社の主義や主張を強く打ち出していることがわかる。

日本の産経ニュースは、「中国が初の『反腐敗白書』汚職 24 万件摘発も大物少なく、市民からは不満 賄賂総額は約 2000 億円」(2010. 12. 29) と伝え、中国系の人民網 (日本語版) では、「中国、初の「反腐敗・廉政建設白書」を発表」(2010 年 12 月 30 日) として伝えている。記事見出しを一見しただけでも、両者の姿勢の違いがわかる。

ちなみに、「反腐敗白書」とは、政府や共産党幹部の横領や汚職などの取り締まり状況をまとめた中国政府によるはじめての報告書であり、グーグルで {反腐敗} と検索するだけで、中国での汚職や横領に関する話題が、沢山入手でききる。

現在、白書は、中央官庁のウェブサイトで、無料で簡単に入手できるので、直接にアクセスすることを、お勧めする。新聞による報道に満足するだけでなく、白書そのものを直接閲覧し、比較することが重要である。

白書には、政府の政策や姿勢が書かれているだけでなく、政府の審議会や委員会に提出された資料や統計データが掲載されている。また、すべてのバックナンバーが掲載されているので、過去の政策の分析にも役立つ。

どのような白書が発行されているかは、グーグルで、単に {白書}、{白書一覧} と検索すれば、簡単に調べられる。また、{白書 調べ方}、{白書 読み方}、{白書 読まれ方} と検索すれば、白書の調べ方や読み方について、いろいろなウェブサイトが検索される。

最後に、白書を調べるには、国会図書館の「リサーチナビ」をお勧めする。このリサーチナビの検索窓口 (http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/) で、{白書} とキーワード検索すれば、政府発行の白書の一覧、白書の由来や定義、現状などについて知ることができる。